

旭川市におけるネギの栽培について

旭川地区農業改良普及所 村瀬 慎治

旭川市は北海道のほぼ中央に位置し、道北の拠点都市（人口 36 万人）として経済活動の中核をなしている。当地区の野菜は歴史が古く、戦前よりその栽培がなされてきた。近年、野菜の大型産地が各地区で形成されているが、当地区も他の都市近郊と同様に、軟弱野菜を中心とした野菜作りに移行している。

当地区の気候は盆地特有の内陸性気候で昼夜の温度較差が大きく、「品質のよい」、「味のよい」野菜生産にとっては好都合といえる。

旭川市内の軟弱野菜はハウレンソウの約 130 ha を中心に、春菊、パセリー、サラダ菜などが約 30 ha、ネギが約 30 ha、ミツバが約 25 ha、セルリーが約 10 ha、サニーレタスが約 10 ha 等となっており、夏期間の府県移出も盛んに行われている。

ネギの作型は露地一年ネギ。ハウス、トンネル、露地の二年ネギ。ハウスの簡易軟白ネギ。トンネル、露地の小ネギ。ハウス、トンネル、露地の青ネギ（葉ネギ）等であり、特に簡易軟白ネギ、青ネギは特徴ある作型として、その栽培面積は年々拡大してきている。

作型別栽培技術の特徴と栽培法

1 一年ネギ

(1)土づくり

一年ネギ、二年ネギは培土により軟白部を形成させるため、圃場選定、土づくりが特に重要な

表1 ネギの目標土壌分析数値

pH (H ₂ O)	電気伝導度 (EC) ミリモ- /cm	置換性塩基			石灰／ 苦土 当量比	苦土／ カリ 当量比	有効態 リン酸 mg/±100g
		石灰 mg/±100g	苦土 mg/±100g	カリ mg/±100g			
6.0~7.0	0.8以下	180~350	25~40	15~30	4~8	2以上	30~50



写真1 緑肥のすき込みで「土づくり」

る。作土が深く（30~40 cm）、排水のよい、しかも団粒構造の発達した圃場が望ましい。

ネギ類は酸性を嫌う野菜に属し、最適 pH は、6~7（5.7~7.4）であり、矯正に必要な石灰質資材を施用する。また、好リン酸作物でもあり、土壌中の有効態リン酸をおおむね 30~50 mg/100 g とするリン酸質資材の投入も必要となる。更に良質な堆肥など有機質肥料等も施し、肥切れしない肥沃な土づくりが重要である。

(2)育苗

苗床は前年のうちに造成しておく。苗床の施肥はおおむね 33 m² 当り窒素 300~400 g、リン酸 1,500~2,000 g、カリ 400~500 g を基準とする。健苗育成からも条播が望ましく、条間を 6 cm、株間を 1 cm 前後になるよう間引く。シードテープの利用は省力、発芽の揃い等に効果がある。

発芽までの地温は 20~25℃、気温は 20℃ とする。

発芽後は気温で 18~13℃、地温で 20℃ 前後とする。

(3)定植後の管理

①定植 苗の大きさを揃える。畦幅 90 cm、株間 6 cm の 2~3 本植えとする。植

表2 簡易軟白及び一年ネギの作型

作 型	一年ねぎ(簡易軟白栽培)			一 年 ねぎ		
	ハウス半促成	8 月 どり	9・10月どり	ハウス直播	トンネル7・8月どり	9・10月どり
は 種 期	12月下旬～1月上旬	3月10～25日	4月25日～5月5日	2月10～20日	2月20日～3月1日	3月25日～4月30日
育 苗 日 数	80～90日	70日(ハウス育苗)	70日(露地育苗)	直播または移植	70～80日	70日
定 植 期	3月20日	5月20日	7月5日		5月1～10日	6月5日～7月10日
は種～収穫始日数	170～180日	150日	150日	130～140日	150～155日	150～155日
収 穫 始	6月10日	8月10日	9月25日	6月25日～7月5日	7月20～30日	8月25日～10月1日
収 穫 期 間	30日	30日	30日	10～15日	15～20日	15～20日
目標収量(10a当り)	7.0 t	8.0 t	9.0 t	600kg(a当り)	3.5 t	5.5 t
標準収量(10a当り)	6.0 t	7.0 t	8.0 t	550kg(a当り)	3.2 t	5.2 t
保 温 条 件	ハウス, トンネル			ハウス, トンネル		
品 種	金長, 石倉, 元蔵	元蔵, 金長	元蔵, 金長	石倉	石倉, 大雪	元蔵, 金長
10 a 当りは種量	15dl			2 dl(a当り)	6 dl	
栽 植 密 度 (10 a 当り株数)	30×5 cm×2 本植	30×3 cm×1 本植		15×5 cm ハウス利用率70%	90×6 cm(2～3 本植)	

溝は10～15 cm程度とする。苗はねじらずに浅植えするように心がける。

②培土 培土は3回程度行うのが適当で、第1回は定植後40～50日目。第2回はその後30日前後。最終は収穫30日前とする。いずれも葉身部の分岐点まで土を寄せる。早くから少量を回数多く行くと軟白部は長くなるが肥大が抑制され、逆に遅れると肥大はするが短くなり、しまりも良くない。

2 ハウス簡易軟白ネギ

この作型は道内、特に上川管内での栽培がほとんどである。3月上旬に無加温ハウスに直播する(15 cm×5 cm)作型が開発されて以来、その後、育苗方式に変わり、は種も3月から12月へと早まり出荷時期も1カ月早くなり6月から収穫できるようになった。育苗も道内では厳寒期にあたるため育苗コストも高くなり、しかもその時期は日照が少ないため徒長傾向の苗となる。それらの対策として

数年前より府県に育苗を依頼している。それを「リレー苗方式」と呼んでいる。

軟白方法もみがらを全量使用する方式から、省力のためにもみがらの一部利用方式、そして、全く使用せず遮光フィ

表3 施肥例 (kg/10 a)

要素	方法		追 肥		
	基 層	植 溝	1回目	2回目	3回目
窒 素	9	3	5	4	4
リン酸	13	7	—	—	—
カリ	9	3	4	4	5

注) 追肥は定植後15～20日後より、15～20日ごとに3回分施する。



写真2 「リレー苗」(大阪府で育苗)

表4 植えつけの深浅とネギの生育、収量

(石黒, 1967)

試験区	草 丈	葉鞘長	葉身長	軟 白 部	白 長	1 葉 本 数	1 株 葉 数	葉鞘径	1株当り分けつ数	1 株 重 量	10 a 当り重量	深植えを100とした場合の重量指数
	cm	cm	cm	cm	cm	枚	枚	cm	本	g	kg	
浅植え区	86.4	28.0	58.4	10.5	3.4	30.2	2.1	4.5	281.6	5,248	160	
深植え区	83.9	24.9	59.0	13.4	3.3	21.8	2.3	3.4	175.5	3,270	100	

表5 晩ネギの生育収量と土寄せ時期・回数

(神奈川農総研・昭52)

土寄せ時期	葉 長	葉 数	葉 鞘 長	太 さ	1 株 本 数	調 整 重	曲 り 率
月	cm	枚	cm	cm	本	kg	%
9, 3	97.6	4.7	37.8	1.68	15.3	1.10	25
9, 11, 3	96.9	4.1	38.9	1.60	17.2	1.11	15
9, 11, 1, 3	100.8	4.3	42.3	1.60	16.3	0.93	5

表6 もみがら軟白栽培の栽植密度と生育収量

(沢田, 1971)

区 別	1 株 当 り						1 a 当 り				
	全 重	全 長	白色部長	葉 数	葉 輪 径	本 数	全 重	調 整 重	同 割 合	粗 収 入	
	g	cm	cm	枚	cm	本	kg	kg	%	円	
15cm×3cm(22,200株/a)	70.0	88.8	35.0	4.3	1.4	22,100	1,550	1,260	97	78,120	
15×5(13,300)	132.0	87.5	29.0	5.0	1.7	12,400	1,640	1,300	100	80,600	
20×3(16,600)	92.9	90.4	30.7	5.2	1.7	16,100	1,500	1,210	93	76,020	
20×5(10,000)	167.0	96.0	28.8	5.6	1.8	9,600	1,600	1,160	90	73,780	

ルムだけで軟白する方式へと進んできて
いる。

表7 ネギのかん水効果

(道南農試, 1967)

区 別	項 目	1 株 当 り			a 当 り		
		全 重	葉 数	茎 径	全 重	調 整 重	同 比
		g	枚	cm	kg	kg	%
	無かんがい	132	4.1	1.75	268	222	100
	p F 2.5	168	4.2	2.10	265	306	144
	p F 2.2	178	4.5	2.10	388	380	149

(1)土づくり, 定植準備

平床での栽培であり, 生育中には, かなりのかん水を行うので排水の良い圃場選定, 土づくりを行うことが重要となる。

定植は3月上旬から中旬の低温期になるので早目に除雪し, ビニールを被覆し地温の確保に努める。定植の2週間前には施肥を行い, 1週間前にはマルチを行い, 18℃以上の地温にしてから定植するようにする。府県から送られてきた苗を選別し, グリナー処理をする。定植の直前にはベンレート処理も行い, 2本ずつをやや深植えする。栽植密度は, もみがら全量利用の場合は, 15cm×5cmの1本植えとする。もみがらの一部利用, また利用しない場合は30cm×5cmの2本植えを基準とする。

施肥はおおむね窒素30~35kg, リン酸25~30kg, カリ25~30kg前後を目やすとする。

(2)定植後の管理

活着までは, ややムシ気味とし, 気温20~23℃, 地温18~20℃を基準とする。その後は生育適温の15~20℃の範囲を中心として管理する。

ネギは意外に水分を多く要求し, かん水の効果は高い。

もみがらは2回に分けて入れるようにする。1回目は草丈50~60cmで収穫の約30~40日前。2回目は収穫の約15~20日前に全量を入れる(深さで35~40cm)。

調整重で約70g/本程度になったら収穫を開始する。



写真3 もみがらにより軟白にする



写真4 もみがらを使用しないで軟白にする

表8 土寄せ回数とネギの収量、発育との関係(品種 下仁田)

(渋谷, 1949)

回 数	項 目	収 量	地上部重	軟白部重	葉 重	全 長	軟白部長	軟白部径	収量割合	軟白部径
		kg/10a	g	g	g	cm	cm	cm		軟白部長
1	回	1,528.9	88.8	53.8	34.7	48.9	14.6	2.8	101.5	0.19
2	回	1,651.7	97.0	58.8	33.2	53.5	14.7	2.9	109.6	0.20
3	回	1,506.6	89.4	57.4	31.9	50.2	16.2	2.7	100.	0.17
4	回	1,439.6	86.0	56.3	29.6	51.3	15.6	2.5	95.6	0.16

